

## 1 事業の成果

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関連するCD、絵はがきなどの有償提供

### ● 地球のステージ実施事業

国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は、新型コロナウイルス感染症の影響で37回となり、前年より59回減と激減した。従来の内容に加え、地球のステージシリーズとして「コロナの時代をどう生きるか」というテーマで新作を制作し実施した。

#### ・公演内容、実施体制

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全校生徒を体育館に入れられない、ホールの収容人数制限などの制約があり、これまで通りの公演が行えたのは60%ほど。生徒さんを2回3回に分け50～60分の公演を複数回行ったり、話だけの公演も実施するなど、地域や学校規模によって希望が異なるため、臨機応変に対応した。コロナウイルスについてのお話「新コロくんと人類」篇を新たに制作し、公演に盛り込んだ。

#### ・公演後の交流など

中学校では会場での質疑応答、高校や大学では希望者を募って交流会を行うケースが多いが、今年度は長時間、ひと所に生徒さんを留め置くことも制限されたため、少数ではあったが、希望に応じて質疑応答や交流会を開催した。

#### ・DVD教材「新コロくんと人類」を海老名市内の小中学校へ納品

コロナウイルスの感染拡大に伴い、毎年、海老名市内の小中学校で実施していた地球のステージ公演が難しくなってしまったため、DVD教材を制作。ナレーションとともにイラストを多用し、コロナウイルスのこと、もしも身近なところで感染した人が出た場合の対応などを考えられるような内容とした。教育委員会を通して、市内17の小中学校に配布し、授業で活用してもらった。

- ③ 医療、教育、職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

### ● 東ティモール事業：

2021年2月より、エルメラ県における母子保健リプロダクティブヘルス向上事業を開始した。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大をうけロックダウンとなり、在宅勤務を余儀なくされた。専門家渡航を見送らざるを得なくなり、代わりにZOOMによるオンラインセミナーを実施した。今後も感染状況に事業進捗が左右されるが、できうる代替案を模索し事業継続をはかっていく。

また、マヌサエ村助産師育成に関しても継続して実施している。

現在は最終学年を履修。2021.3時点で新型コロナウイルス感染症拡大を受け、休校中。

● パレスチナ支援事業：

2020年4月より外務省へ新規事業申請準備、9月に申請。審査を経て3月11日付で採択、外務省と贈与契約を締結し、2021年3月31日より新規事業を開始した。  
外務省事業のなかった2020年度は、プロジェクト立案の為にニーズ調査をメインとして活動を行った。自己資金と7月～8月にかけて実施したクラウドファンディングを現地の運営資金に充当した。

● ミャンマー教育支援事業：

ミャッセ・ミャー村の中学校3年生から高校2年の生徒の就学支援として里親を募集したが、ミャンマー国内の新型コロナウイルス感染者急増を受け、学校の開始が見込めていなかった為学校開始後に送金予定であった。  
2021年2月1日（月）にミャンマー軍によるクーデターが勃発。毎日デモが起きている状況で、学校の再開見込みも立たず、市民の間ではCDM（Civil Disobedience Movement）と呼ばれている職場をボイコットする運動が盛んであり、銀行等も機能していない。  
よって、2020年度に里親さんから協力いただいた支援金は、次年度へ繰越しとする。国内情勢が落ち着き、学校教育の方向性が見えた時点で、送金もしくは今後の支援について検討することとする。

⑤ 自然災害時における救援活動に関する事業

● 東日本大震災復興支援事業：

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた名取市閑上において、遺族会の活動を継続支援しながら、地元で被災された方々が語り部や案内人となり「生の語り」を通して震災やいのちの大切さを伝えることができた。加えて被災地で深刻化している心の問題にも取り組み、「語る」ことで心の整理が進められるように、被災された方たちへの「語る」機会や場所の提供することができた。  
また、宮城県と協働で地域学校活動の推進にも取り組んだ。  
子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進し、学びによるまちづくりや地域人材育成に寄与することができた。また、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図ることができたと考える。  
また、津波被災という出来事を自分のこととして捉え、「復興」工事が進み街がきれいになることだけではなく、被災された方たちの心が前に進んでいくような復興のあり方を考える機会を提供することができた。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関するCD、絵葉書などの有償提供

● 地球のステージ公演事業

- ・ 事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・ 日時 通年

- ・場所 日本全国の学校体育館・ホールなど  
オンライン形式による
- ・従事者人数 約3名（1公演）2名（マネージメントスタッフ）
- ・対象者 学校の生徒・教職員、一般参加者 約10,000人
- ・支出額 13,377,327 円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

● 東ティモール支援事業

- ・事業内容 医療アクセスの悪い山岳地帯のエルメラ県で、多くの女性と子供が質の高い母子保健サービスが利用できるようになることを目指し、専用病棟の建設、医療者への超音波診断器を使った妊産婦検診指導、母子手帳の有効活用、母親学級の改善、母子や女性の健康に関する住民への啓発活動に取り組む。  
助産師育成事業にも取り組む。
- ・日時 2020年4月1日～2021年3月31日（継続）  
2021年2月8日～2021年3月31日（N連事業）
- ・場所 東ティモール民主共和国 エルメラ県全52村
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、東ティモールスタッフ7名、
- ・対象者 直接裨益者：訳3,000人（エルメラ県の医療従事者、県保健局役人、  
村長、対象妊産婦）  
間接裨益者：約14万人（エルメラ県全医療従事者及び住民）  
助産士学校学生 1名
- ・支出額 11,276,143 円

● パレスチナ支援事業

- ・内容 ガザ地区における危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア事業
- ・日時 2020年4月1日～2021年3月31日
- ・場所 ガザ地区 ①ラファ市
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、現地スタッフ10名、
- ・対象者 直接裨益者：約500人（ガザ地区ケアクラス対象者、普及活動参加者）  
間接裨益者：約5,700人（直接裨益者の家族・知人、事業外研修の受講者）
- ・支出額 5,202,307 円

● ミャンマー里親学資支援事業

- ・内容 ミャンマー中部ミャッセ・ミャー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・日時 2020年4月1日～2021年3月31日（継続）
- ・場所 ミャンマー国 シャン州 ミャッセ・ミャー村
- ・従事者人員 日本人スタッフ2名、現地スタッフ 1名
- ・対象者 中学生 Grade8：12名 Grade9：11名  
高校生 Grade10：13名、Grade11：7名 計43名
- ・支出額 540,819 円

④ 自然災害時における救援活動に関する事業

● 東日本大震災復興支援事業

- ・ 内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の運営ならびに被災者支援。  
「いのちのステージ」「語り部講演」を通じた地域の人材育成なら  
びに活動を通じ社会全体の教育力向上をめざす。
- ・ 日時 2020年4月1日～2021年3月31日
- ・ 場所 宮城県名取市閑上、宮城県内の学校等、公演・出張語り部は各依頼  
者の設定地
- ・ 従事者人員 フルタイムスタッフ1名、パートタイムスタッフ6名
- ・ 裨益者数  
「閑上の記憶」来館者 3,892人  
案内ガイド 50回実施、1,318人参加  
語り部講話 10回実施、1,325人参加  
語り部の会 7回実施、55人参加  
出張語り部講演会 7回開催  
公演会 7回実施 2,100人参加
- ・ 支出額 9,989,384円